

# 詳細検索画面の項目説明

「種別」欄は、この部分だけの検索ができます。

「タイトル」欄は、この部分だけの検索ができます。

リウマチ 43(4) : 638-643, 2003

**原 著**

**人工膝関節置換術及び人工股関節置換術が共に施行された関節リウマチ症例の下肢アライメントについての検討**

東京女子医大附属藤原病リウマチ診療センター 整形外科

川村 孝一郎 桃原 茂樹 戸松 泰介

(2003.1.31受付, 2003.6.27受理)

要旨=【目的】人工股関節置換術 (THR)・人工膝関節置換術 (TKR) を共に施行した関節リウマチ (RA) 患者26例の下肢アライメント異常をretrospectiveに調査検討した。【方法】1992年～2000年までにTHR・TKRを共に当院で施行したRA患者26例の両側全下肢長レ線像を調査し、アライメント異常をX脚、O脚、Windswept脚 (内反膝と外反膝を持つ脚) に分類した。さらにレ線と股関節破壊による荷重軸の移動方向により中心性偏位・上外側偏位・上方偏位と設定し、その成因を検討した。【結果】アライメント異常はX脚11例、O脚5例、Windswept脚6例で、股関節破壊は中心性偏位群6例・上方偏位群10例・上外側偏位群6例だった。中心性・上外側偏位群は荷重軸移動と骨盤傾斜・患肢内転拘縮が脚変形に影響し、上方偏位群は左右差行的に脚変形が進行した。Windswept脚変形は非対称性に進行し、反対側下肢関節破壊が著明だった。【考察】股関節破壊に伴う荷重軸変化や骨盤傾斜、患肢股関節内転拘縮などの近位部障害が下肢アライメント異常に関与しているため、多関節障害ではそれらを考慮し治療を進める必要がある。

関節リウマチ (以下RA) 患者の多関節障害に対し近年人工関節置換術が施行され、非常に良好な成績が収められている。しかし複数の関節置換が施行される症例が増加するにつれて、関節全置換術を追加する過程でアライメントが変化し、手術関節以外の関節にまで何らかの影響を及ぼすことが考えられる。今回は下肢に限定し、股関節及び膝関節に人工関節置換術が施行された症例についてretrospectiveに調査し、下肢アライメント異常の傾向や多発関節障害の進行・メカニズムを検討した。

**対 象 と 方 法**

1992年11月から2000年6月までに当院で人工股関節置換術 (以下THR) 及び人工膝関節置換術 (以下TKR) が共に施行されたRA症例26例 (男性2名、女性24名) を対象とした。これら症例のRA発症年齢は平均46歳 (23～80歳)、平均罹患期間は17.2年 (2～40年) で、初回手術時平均年齢は58.0歳 (34～86歳) であり、またステロイド平均投与量は1日当たり4.6mgで平均投与期間は11.5年であった。

既往歴は、先天性股関節脱臼2例、突発性難聴1例、アミロイド腎1例、リウマチ熱1例であるが、神経変性疾患や先天性神経疾患などの既往は認めなかった。平均手術回数は3.9回 (2～8回) で、下肢人工関節置換術施行回数は平均2.8回だった。初回人工関節置換の施行部位は股関節16例、膝関節10例であった。人工関節形成術の内訳は、THR、TKR 1関節ずつが9例、THR2・TKR1が2例、THR1・TKR2が11例、THR・TKR4関節置換は4例であった。

両側荷重時全下肢長と局所のX線写真について各手術の術前・術後を比較し、また初診時からの経過や手術所見・術後経過も参考にし、アライメント異常と関節破壊進行の傾向・骨盤傾斜を調査した。X線撮影に関しては藤原の方法<sup>1)</sup>に準じて撮影した。

(Key words) alignment of lower extremity : Rheumatoid Arthritis : Windswept deformity

「著者」欄は、この部分だけの検索ができます。

「Keyword」欄は、この部分だけの検索ができます。